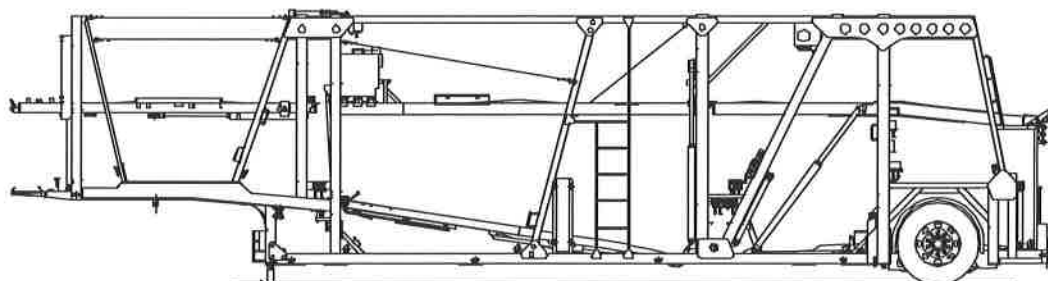


# 車両運搬トレーラ

## 解体マニュアル



株式会社 浜名ワークス

2006年11月1日 発行

## 目 次

1. はじめに .....	1
2. 作業上の注意 .....	1
3. 主要部品名 .....	2
4. 固縛部品の取り外し .....	3
5. 油圧系部品の取り外し .....	4 ~ 7
6. 制動装置・走行装置の取り外し .....	8 ~ 12
7. 電装品等の取り外し .....	13 ~ 16
8. 昇降フロアの取り外し .....	17 ~ 19
9. スライド柱内スライダの取り外し .....	20
10. 車枠・固定フロア等の分解 .....	21
11. 製造社名表示位置 .....	22
12. 社名ステッカー表示位置 .....	23
13. 材料名表示位置 .....	24

# 車両運搬トレーラ解体マニュアル

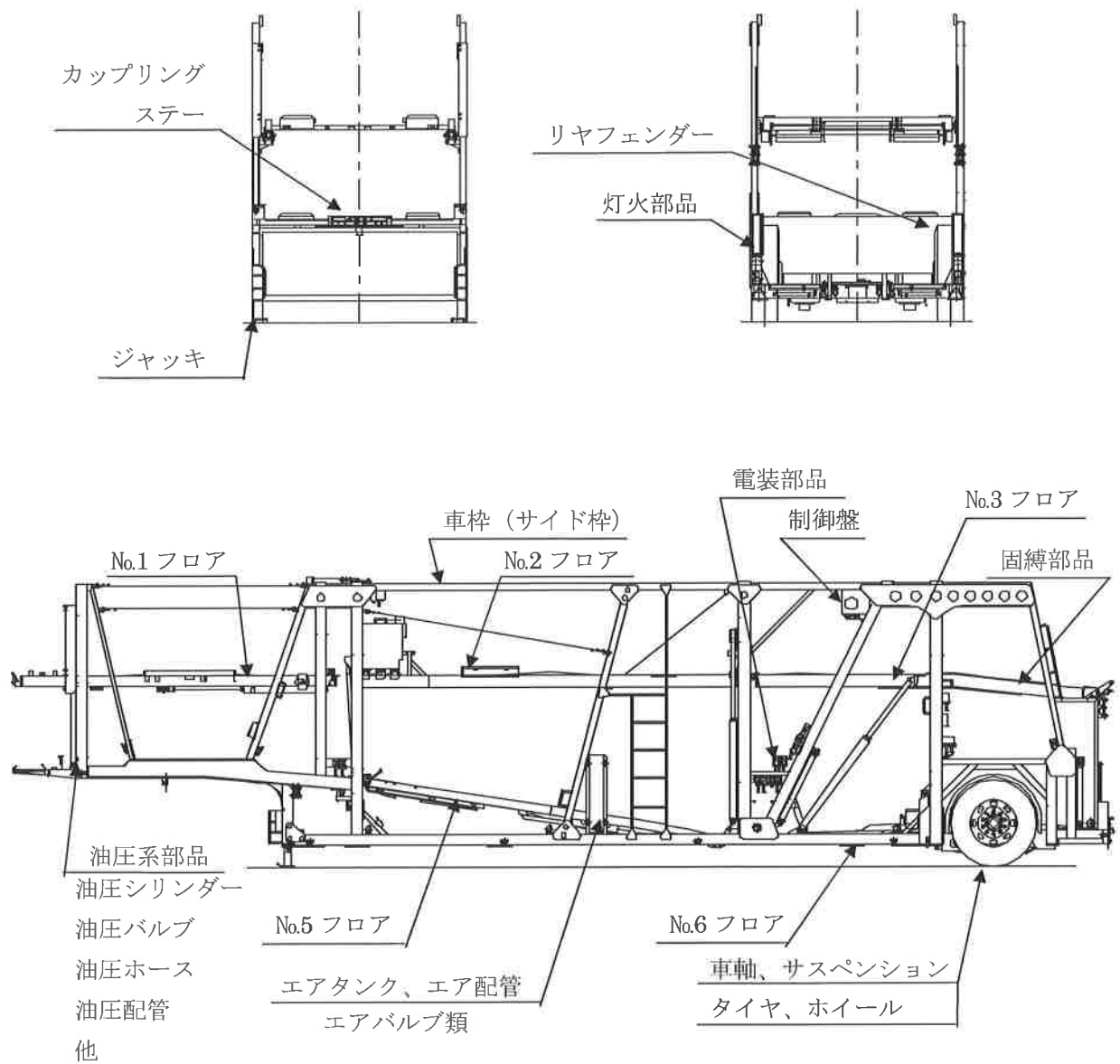
## 1. はじめに

- (1) 本マニュアルは車両運搬トレーラの解体に関して、「適正で効率的な作業」を案内し、使用済み架装物処理の段階で適正且つ安全に処理する為の手順をまとめてあります。
- (2) 本マニュアルに記載のない内容（事前準備、選別等）については、製品名板に記載されている製品メーカーに直接問い合わせるか、ホームページをご覧ください。
- (3) 本マニュアルに記載する内容は、改善その他の事由により予告なく改定する場合がありますので予めご了承下さい。

## 2. 作業上の注意

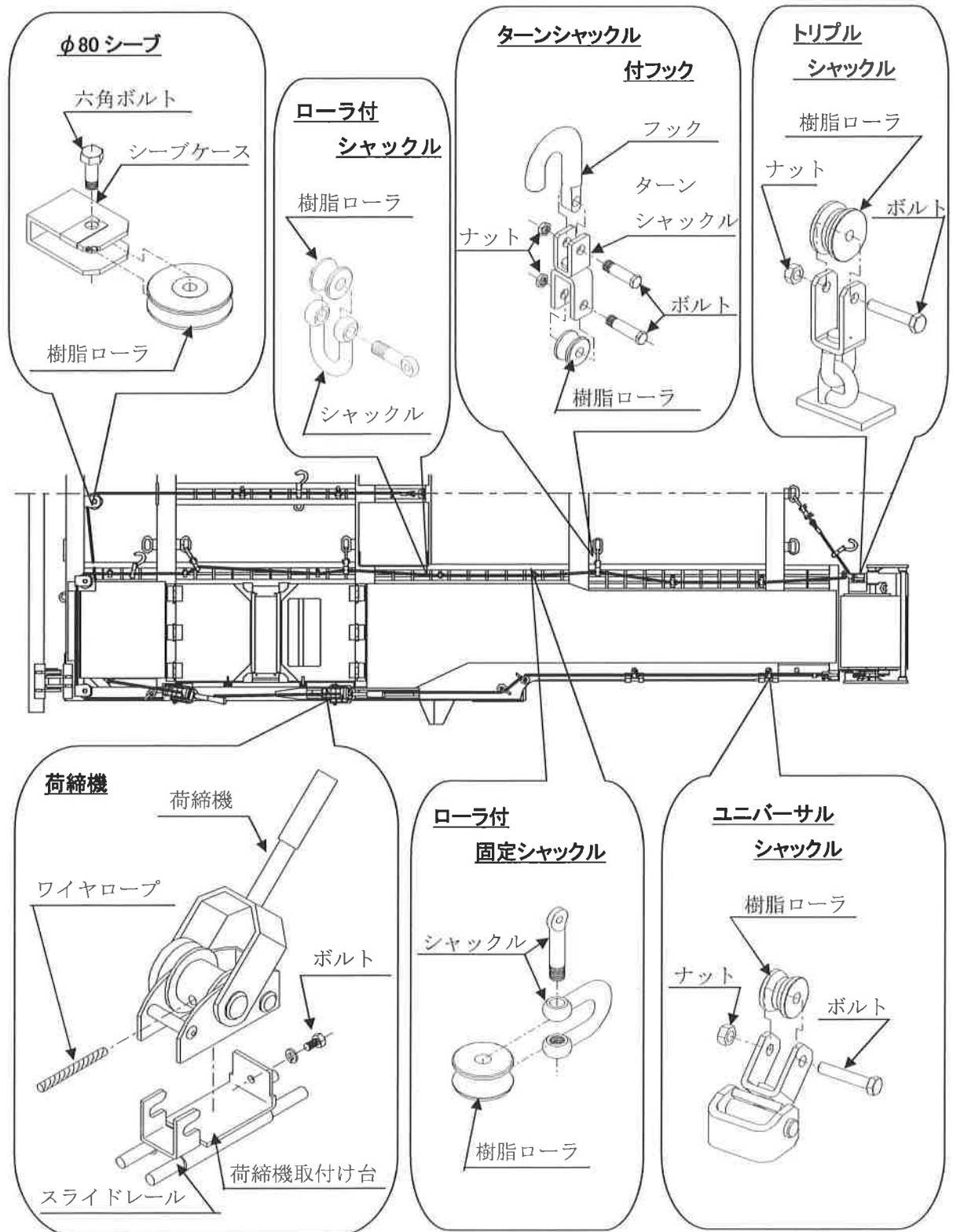
- (1) 安全な作業を行うに当たって、定められた作業服、作業帽、安全靴を着用し、作業内容に応じて保護メガネ、耳栓、防塵マスク等の保護具を着用して下さい。
- (2) 高所作業については、安全帯、足場の確保等転落防止処置を講じて行なって下さい。
- (3) 燃料系の除去・回収に当たっては、消防法を遵守し、引火・爆発が発生しないような環境及び方法で行なって下さい。
- (4) 油脂・液材系の除去・回収に当たっては、地下浸透や施設外流出が発生しないような環境及び方法で行なって下さい。
- (5) タンク等の解体時は有害物質等の除去・洗浄を完全に行い、安全を確保した上で作業を行なって下さい。
- (6) 使用済み架装物等に含まれる作動油等の有害物質及び埋立が禁止されている部品、材料並びにそれらを含む部品を粉砕処理する前工程で選別し適正に保管、処分を行なって下さい。
- (7) FRP・木材の解体後の処理については、シュレッダー業者又は専門回収会社に委託し、適正に処理を行なって下さい。
- (8) 上記注意事項以外に、以下の法律を遵守するようお願いします。
  - ①廃棄物処理法
  - ②水質汚濁防止法
  - ③大気汚染防止法
  - ④悪臭防止法
  - ⑤騒音規正法
  - ⑥労働安全衛生法
  - ⑦消防法
  - ⑧その他
- (9) 解体作業を始める前に、解体作業中車両が動き出さないよう適切な固定対策を行なって下さい。

### 3. 主要部品名



#### 4. 固縛部品の取り外し

下図の固縛部品（商品車固定用部品）は、モンキー 及び めがねレンチ等で取り外すことが可能です。樹脂ローラー部（POM）と金属部（鉄）に分別して下さい。



## 5. 油圧系部品の取り外し

1) 部品取り外し前に、オイル（作動油）を抜いて下さい。

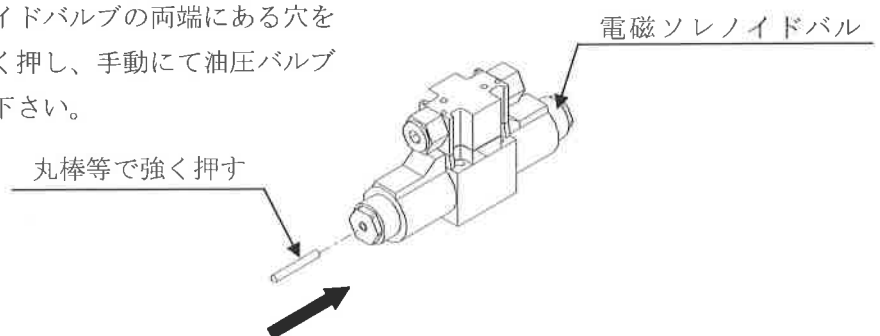
〔トラクタが連結されている場合〕

- ① エンジンを始動しPTO及び昇降メインスイッチを「ON」にして下さい。
- ② フロア昇降スイッチ【上】を押し、上段フロアを上限まで上げて下さい。この時ストップピンはセットしません。トレーラ内には絶対立ち入らないで下さい。
  - ・中段フロアのある車両においては、中段フロア昇降用油圧シリンダーが垂直より、若干後方に倒れた状態の位置まで【上】スイッチを押しフロアを持ち上げて下さい。エンジン及びPTOを切り、トラクタ側に取り付けられた油圧タンクのドレーンを開け受け皿等にオイルを抜き、次に運転席で、エンジンキー及び昇降メインスイッチを「ON」にして下さい。PTOは「OFF」のままにします。  
(エンジンは始動しなくても可ですが、バッテリー上がりに注意して下さい。)
- ③ トレーラのフロア昇降スイッチ【下】を押し、フロアを自重で下限位置まで下げて下さい。  
この操作により、油圧シリンダー内のオイルはトラクタ側油圧タンクに戻り、ドレーンから排出されます。ドレーンが開けていない状態で上記の作業を行なうと、給油口からオイルがオーバーフローします。
- ④ トラクタのエンジンキー及び昇降メインスイッチを「OFF」にします。
- ⑤ トレーラの油圧配管で最も低い位置にある配管継手を外し、そこから受け皿等にオイルを排出します。
- ⑥ トラクタのエンジンキー及び昇降メインスイッチを「ON」にします。
- ⑦ トレーラのフロア昇降スイッチ【上】【下】を全箇所交互に押し、油圧配管内のオイルを極力外した配管継手部から排出します。
- ⑧ トラクタのエンジンキー及び昇降メインスイッチを「OFF」にします。

手動式油圧バルブの場合は、昇降スイッチの代わりにバルブレバーを操作して下さい。

〔トラクタが連結されていない場合〕

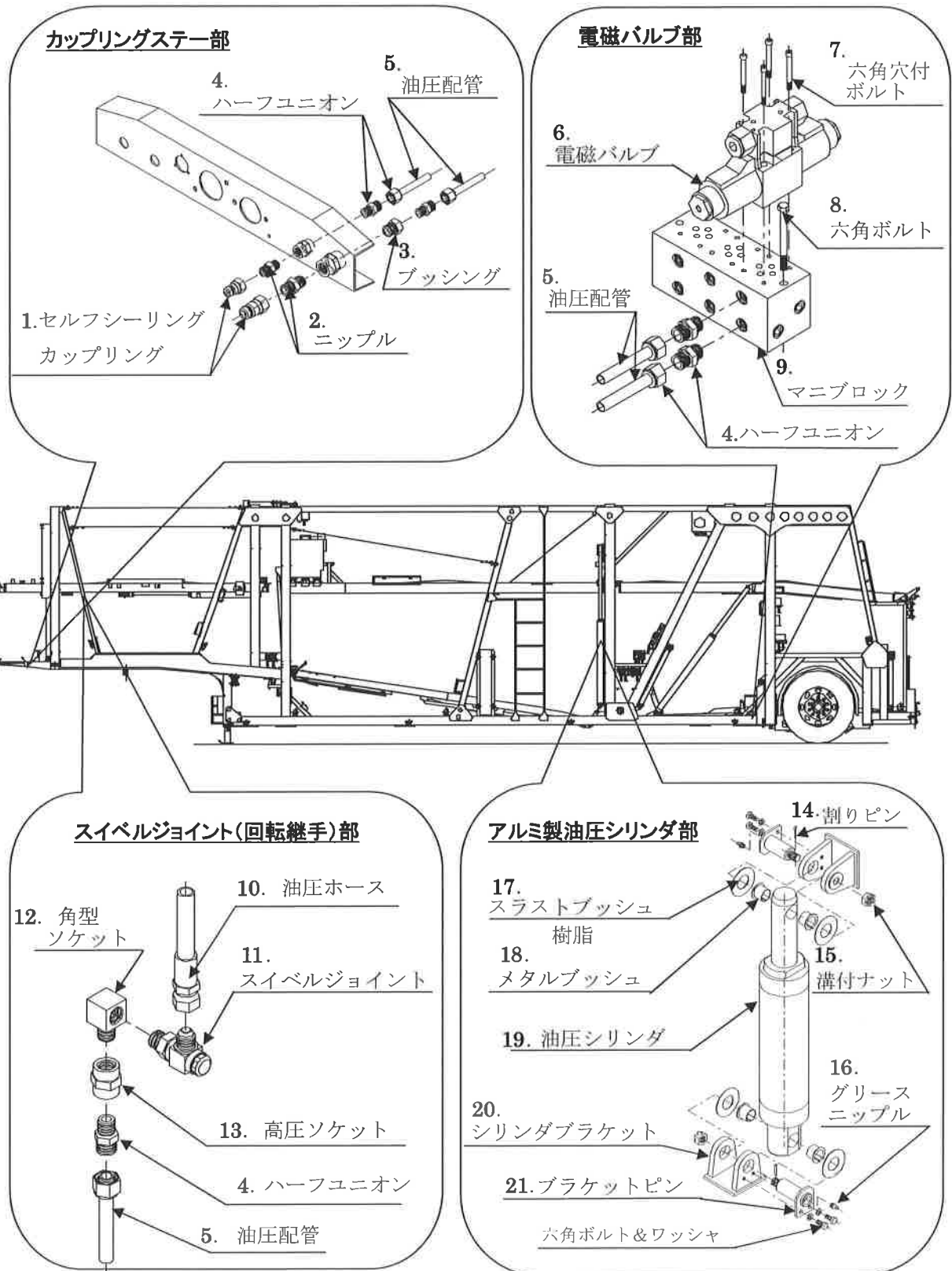
- ① 上段フロアがセットピンに乗っている又は上段フロアが昇降下限位置にあることを確認して、トレーラの油圧配管で最も低い位置にある配管継手を外し、そこから受け皿等にオイルを排出します。
- ② 油圧バルブを手動で切替えて、極力配管内のオイルを外した配管継手部から排出します。  
電磁ソレノイドバルブの両端にある穴を丸棒等で強く押し、手動にて油圧バルブを切替えて下さい。



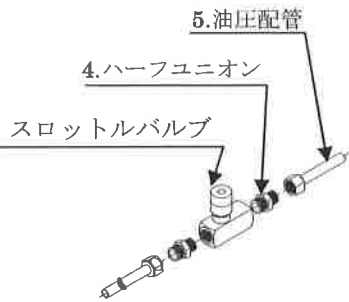
2) 油圧部品を取り外します。

地上から高い位置にある油圧系部品から順次取り外します。

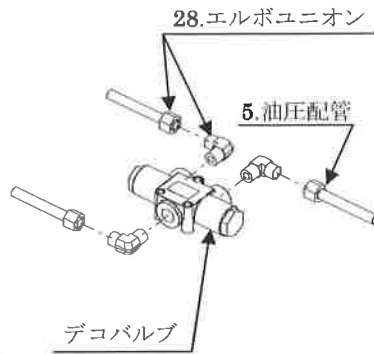
取外し時、油圧部品及び配管などに残っているオイルが、噴き零れる場合があります。必ず受け皿等を用意して環境汚染防止に配慮し作業を行なって下さい。



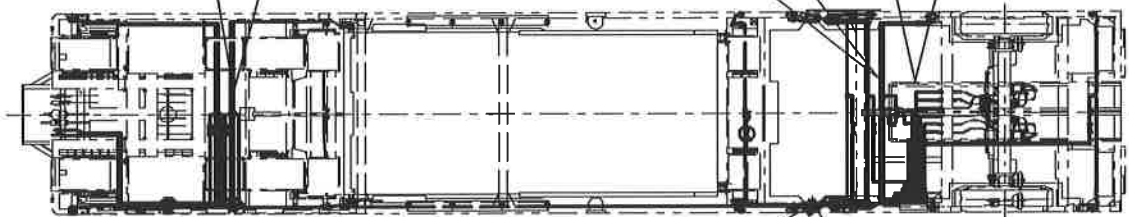
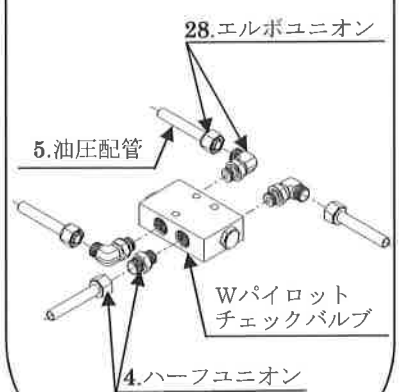
### 23. スロットルバルブ部



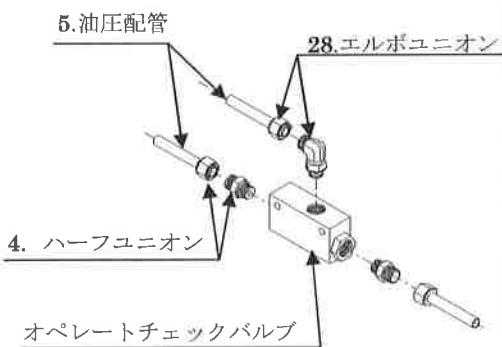
### 24. デコバルブ



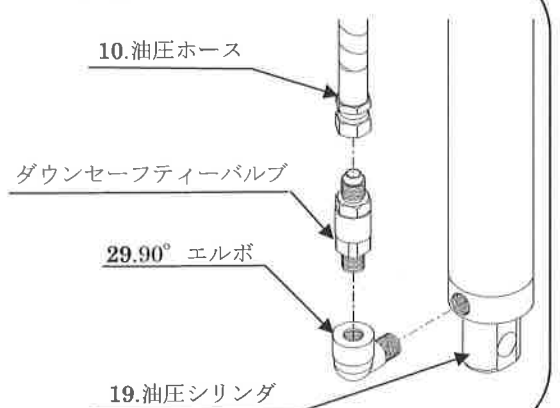
### 25. Wパイロット チェックバルブ部



### 26. オペレートチェックバルブ

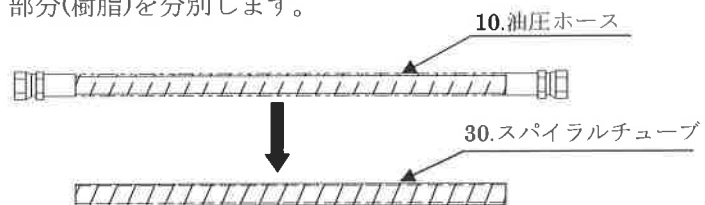


### 27. ダウンセーフティーバルブ



### 油圧ホースの分解

油圧ホースは、ホース部分（ゴム）とスパイラル部分（樹脂）を分別します。



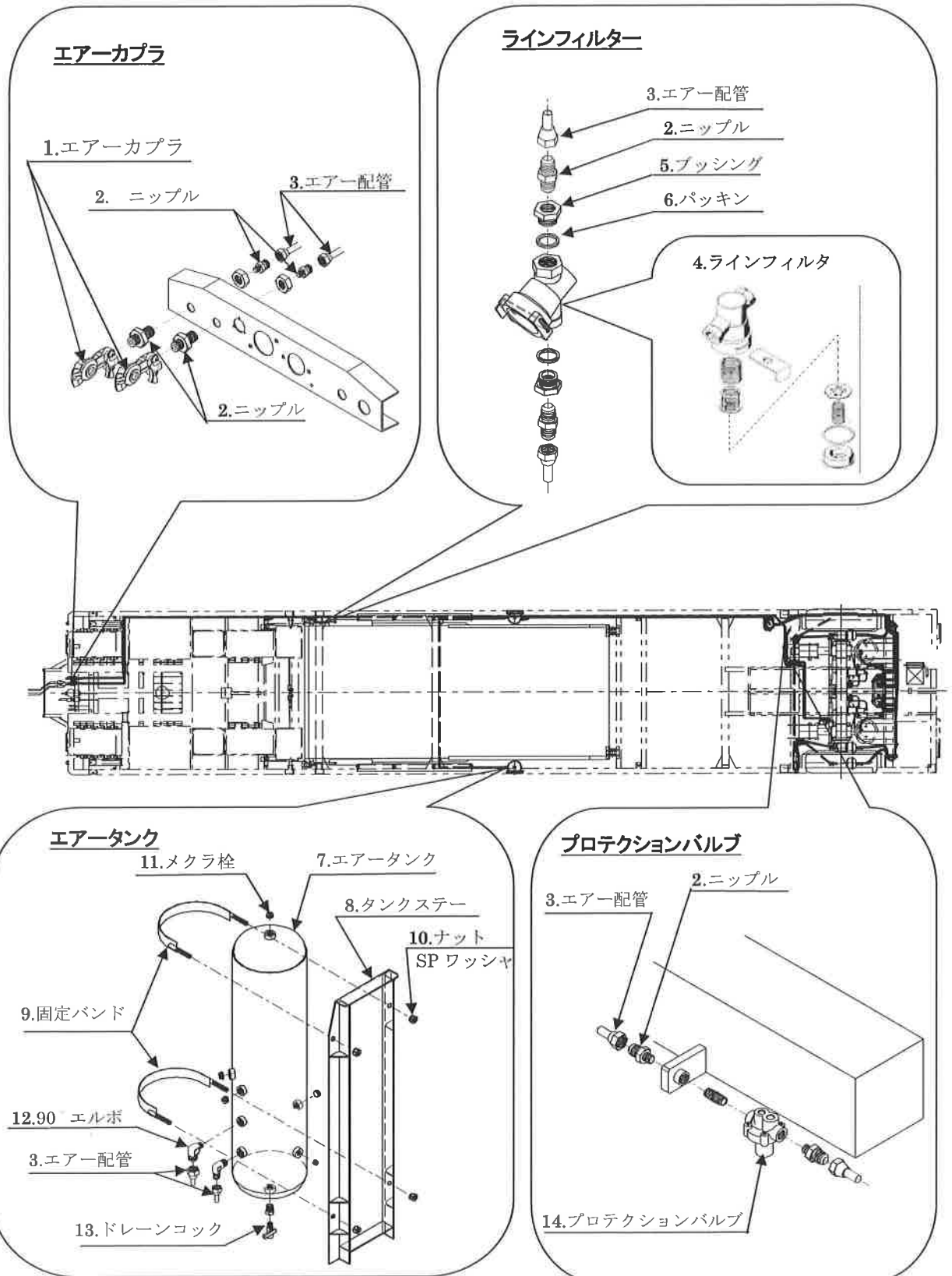


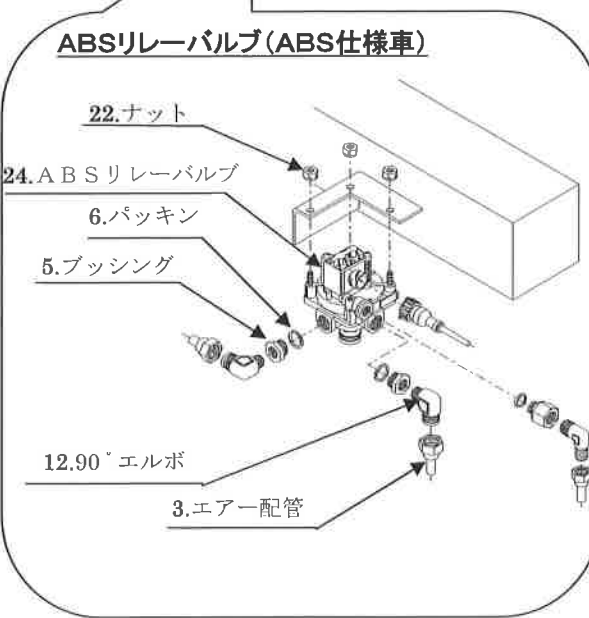
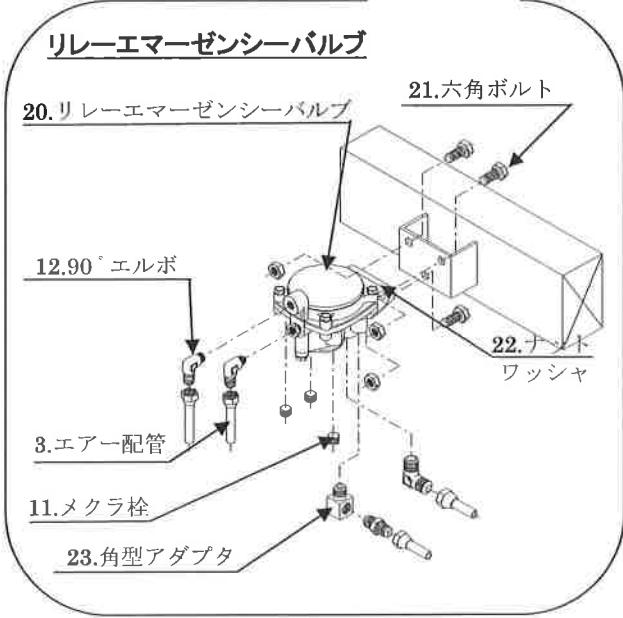
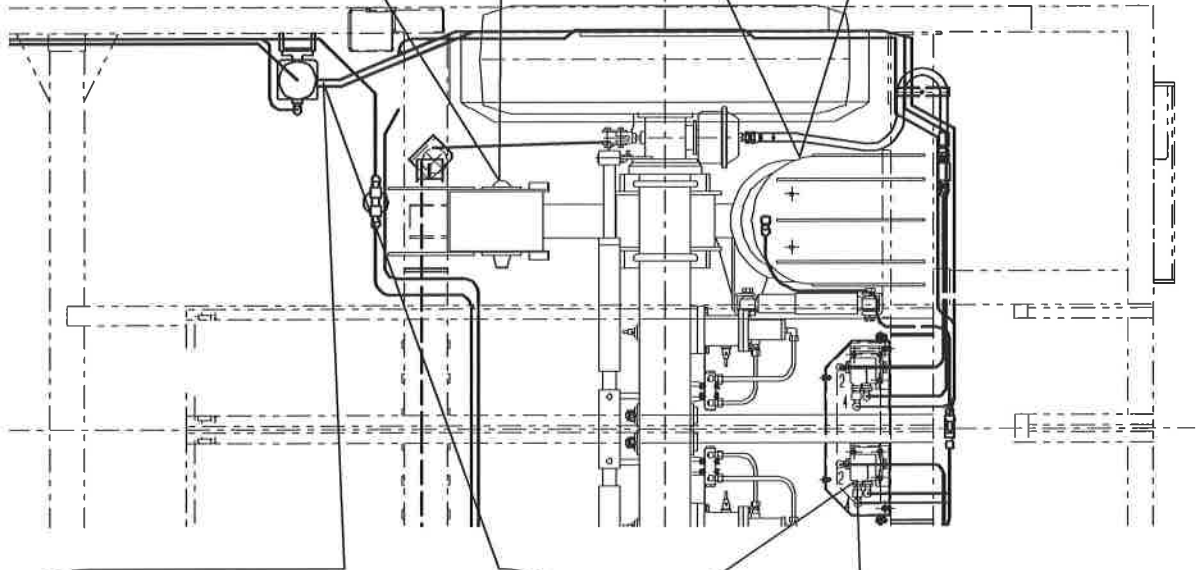
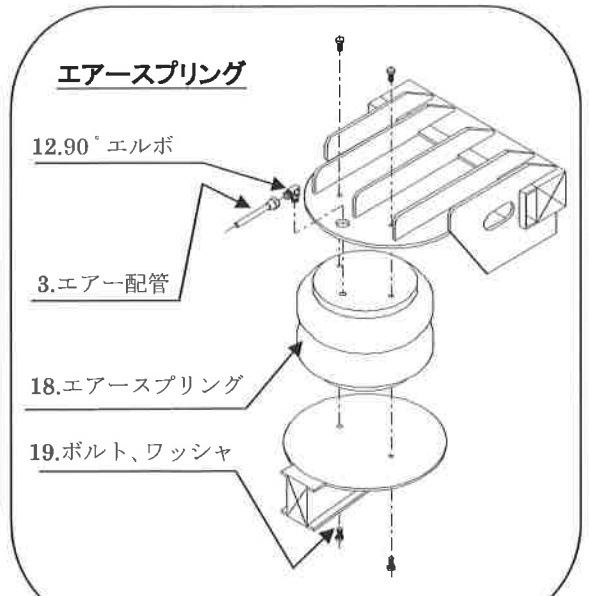
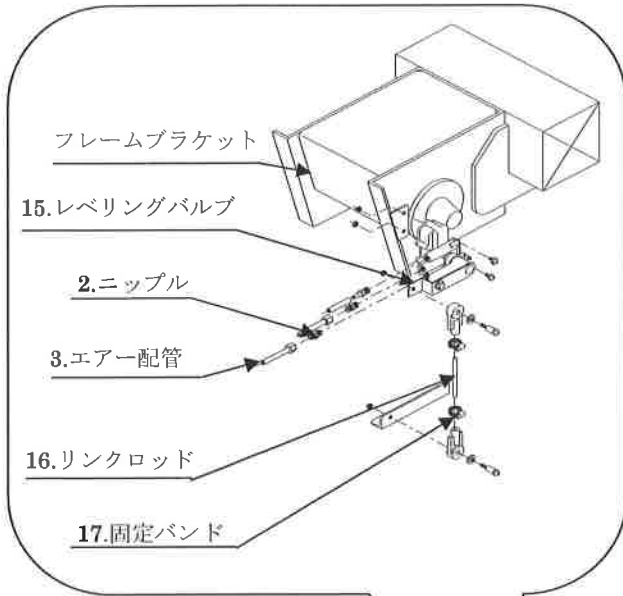
No	品名	材質	備考
1	セルフシーリングカップリング	鉄	
2	ニップル	鉄	
3	ブッシング	鉄	
4	ハーフユニオン	鉄	
5	油圧配管	鉄	
6	電磁バルブ	鉄+PA+ゴム+その他	適切に処理して下さい
7	六角穴付ボルト	ステンレス	
8	六角ボルト	ステンレス	
9	マニブロック	アルミ	
10	油圧ホース	ゴム+鉄	適切に処理して下さい
11	スィベルジョイント	鉄+ゴム	適切に処理して下さい
12	角型ソケット	鉄	
13	高圧ソケット	鉄	
14	割りピン	鉄 又は ステンレス	
15	溝付ナット	鉄	
16	グリースニップル	黄銅 又は 鉄	
17	スラストブッシュ	VHMW-PE	
18	メタルブッシュ	鉄	
19	油圧シリンダー	アルミ+鉄	適切に処理して下さい
20	シリンダブラケット	鉄	
21	ブラケットピン	鉄	
22	六角ボルト&SPワッシャ	鉄	
23	スロットルバルブ	鉄	
24	デコバルブ	鉄	
25	Wパイロットチェックバルブ	鉄	
26	オペレートチェックバルブ	鉄	
27	ダウンセーフティーバルブ	鉄	
28	エルボユニオン	鉄	
29	90° エルボ	鉄	
30	スパイラルチューブ	PP	
31			
32			
33			
34			
35			

- 注記) 1. 油圧バルブ内 及び アルミ部品に接続される配管継ぎ手等には、Oリングやパッキン等のゴム、樹脂製品が含まれます。
2. 電磁バルブ端子内には鉛を含むハンダが含まれます。
3. 油圧ホースはホース部分と樹脂製スパイラルチューブに分別処理して下さい。
4. 作動油使用量はトラクタとトレーラが連結された状態で約80L、トレーラのみで約40~45Lです。適切な容量の受け皿、廃油タンクを事前に用意して下さい。

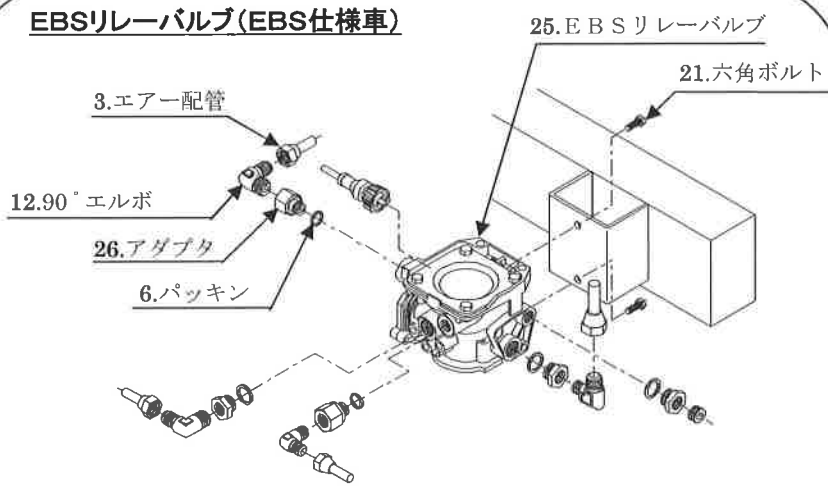
## 6. 制動装置・走行装置の取り外し

トレーラ単体状態で、エアータンクのドレーンコックを開きタンク内のエアを抜いて作業を開始して下さい。この時、車両が動かないように安全に保持されていることを確認して下さい。

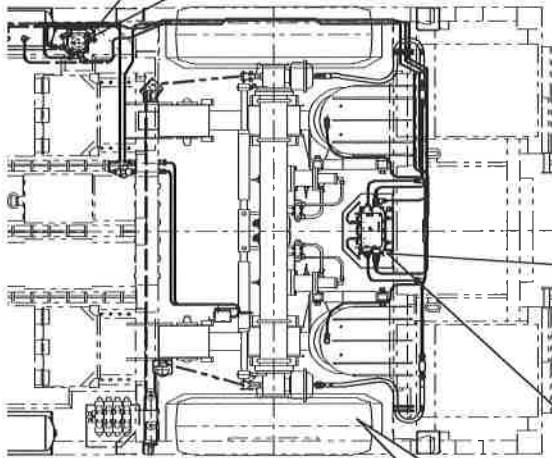
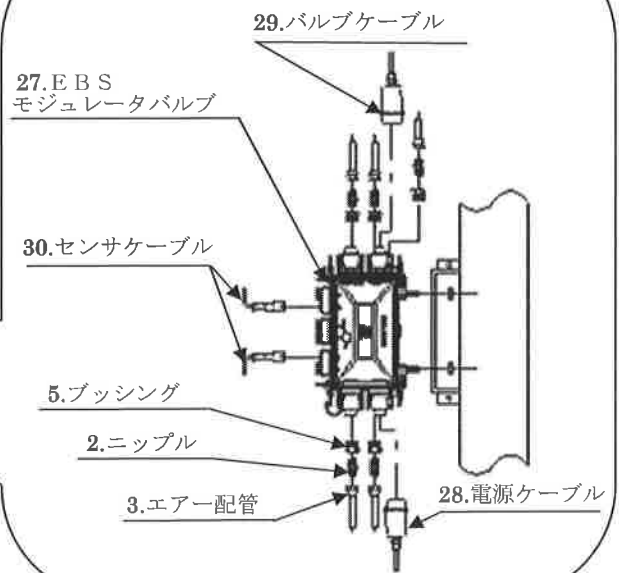




**EBSリレーバルブ(EBS仕様車)**



**EBSモジュレータバルブ(EBS仕様車)**



**ハイトコントロールバルブ(取付車)**

